

# 西伊豆健育会病院

医師 鶴山 優

- 功 績** 「患者に向き合う医師の心得 ～総合診療医からの視点から～」というタイトルで医師向け教育ビデオ作成し、健育会グループの医師の役割「医の倫理の番人」として、愛情を持って親身な対応について考える機会となった功績。
- 推 薦 者** 院長 仲田 和正
- 推 薦 理 由** 鶴山医師は入職3年目の若手医師です。とても温厚な性格で、病状説明も非常に分かりやすく患者さんやご家族からも信頼を得ています。今回、ICT委員長としてCOVID-19のクラスター対応を始めとして感染対策主導する中、医師向け教育ビデオ「患者に向き合う医師の心得」を作成し、医師としての役割について説き、更に広く西伊豆健育会病院をアピールしてくれた鶴山医師を理事長に推薦いたします。

## 内 容

---

当院では開院当初より「救急は全て受け入れる」ことをモットーとして、「救急拒否ゼロ」に取り組んでいる。昨年、院内クラスターが発生している中でも救急を受け入れ、1,000件を超える救急患者の受け入れができた。近年では最高件数である。当地域の人口は減少しており、救急件数の増加は、他の地域からの受け入れに拠るものである。近隣病院から「本日の当直医は内科医なので、外傷を診ることができません。」と、救急拒否された患者さんを当院の内科医が対応している。「救急を断らない」ことは、常勤医以外の後期研修医、非常勤医師にも浸透している。他の地域から搬送されてきた、患者さんのご家族は一応に「受け入れてもらって本当に良かった」と安堵の表情を見せる。我々は患者さんの病気だけでなく、その人の人生を背負っているというプライドを持って診療にあたっている。

今回、鶴山医師がこの西伊豆マインドを医師向け教育ビデオに集約してくれた。理事長から作成依頼をいただいたが、当院が実践している『診療科の垣根を超えて、あらゆる疾患を診る』という総合診療医としての視点を、他のグループ病院の先生方に知っていただく機会となり、非常に光栄なことでもあった。

鶴山医師は3年前、専門研修終了後に、私と一緒に仕事をしたい。と言って勤務となった若手医師である。ICTの委員長であり、今年度はCOVID-19のクラスター対応を主導し、更にFICT(ふじの国感染チーム)の一員として、当院以外のクラスターにも対応してくれた。現在はVREの対応と、今では院内感染対策の要となっている。また県庁から委託されたオンライン健康医療相談も中心となって活動し、事後検証会で事業の発表をしたが、県庁や行政の評価も高い。その様な多忙の日々の中、理事長の思いも反映できるよう熱意を持ってビデオの作成に取り組んでくれた。3本のビデオの完成後は必ず医局内で視聴したが、鶴山医師の細やかな患者対応が表れているビデオ内容であった。

以前の同僚から「理事長トークを見ましたよ。西伊豆の取り組みがビデオになって凄いですね。」と数名から連絡があり、西伊豆マインドが形となったことを、とても喜んでくれた。